

大学・高専機能強化支援事業
(学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援)【支援1】
事業概要

令和5年7月時点

1. 基本情報

選定年度	令和5年度	学校コード	F101210100143
大学名	旭川市立大学	設置区分	公立
学校種	大学	都道府県	北海道
大学全体の総収容定員数	800 名	※令和5年5月1日時点	
学部学科 組織構成	経済学部（経営経済学科）、保健福祉学部（コミュニティ福祉学科、保健看護学科）		

2. 事業概要

新学部で実施する人材育成は、①数理・データサイエンス・AIと工学およびマネジメントの知識を併せ持った 地域イノベーション人材 、②アントレプレナーシップを発揮し スタートアップする人材 、③企業や行政機関などの プロジェクトリーダーとして活躍する人材 、とした。新学部は、入学定員100名、収容定員400名からなり、令和8年度に開設予定である。「 デザイン思考 」「 数理・データサイエンス・AI 」「 PBL型教育 」「 地域との連携 」の 4つを学びの柱 とし、カリキュラムを編成する。市内関係団体等の会員企業、旭川市と近隣町の自治体職員、（地独）北海道総合研究機構の研究員の協力の下、 PBL型授業や双方向型等授業 を複数開講する。また、本学は、（一社）旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの連携校であるが、他の連携校とともに、 数理・データサイエンス・AI および アントレプレナーシップ教育 において、集中講義や遠隔授業を視野に入れ、単位互換や共通科目等の検討を行う。
--

3. 本事業で新たに設置等を行う組織

改組予定年度	令和8年度
認可申請・届出予定	令和6年度
※既に申請・届出している場合はその年度を記入	
改組内容	学部の新設
設置等組織名	（仮称）地域創造学部
設置等組織の学位分野	工学関係
当該学部等の所在地	北海道旭川市
入学定員	100名
収容定員	400名
入学定員の増加数	100名
他学部等の入学定員の減少数	0名

※学部・学科を新設する計画である場合は、当該学部等の所在地欄は予定所在地を記入。

※入学定員には編入学定員を含む。

【基本情報】

改組予定年度：令和8年度 改組内容：学部の新設
 設置等組織名：地域創造学部（予定） 入学定員：【R8新設】100名
 所在地：北海道旭川市

【新学部で育成する人材像】

1. 「数理・データサイエンス・AIと工学およびマネジメントの知識を併せ持った地域イノベーション人材」

～地域社会の課題に対し、デザイン思考を基に、文理融合の様々な知識を活用し、他者と協働しながら価値創造していくことができる人材

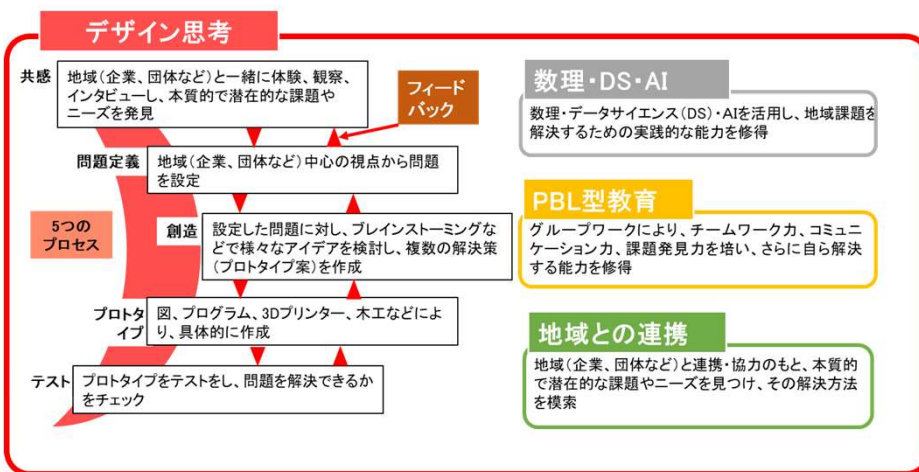
2. 「アントレプレナーシップを発揮しスタートアップする人材」

～限りある経営資源を把握し、社会課題に挑戦するスタートアップ人材

3. 「企業や行政機関などのプロジェクトリーダーとして活躍する人材」

～様々な課題解決するチームを牽引できるリーダーシップを持った人材

【人材育成のための「学びの4つの柱」】



※デザイン思考をフレームとして、他の学びの柱を展開する

【新学部の特徴】

1. 入学後に専門コースを決定

まちづくりプランナーとアントレプレナーの2コースを予定。2年後期にコース分け。この間、デザイン思考とデータサイエンスの基礎を学修。

2. 文理融合教育の重視

まちづくりプランナーコース（都市、建築、インフラなど）とアントレプレナーコース（マーケティング、経営戦略など）の科目を自分の進路に合わせて選択が可能。データサイエンスの科目は必修。

3. PBL（Project Based Learning）型教育

各学年でPBL型教育を実施。デザイン思考、データサイエンスを活用し、課題発見と解決にトライ。卒業時には、デザイン思考とデータサイエンスを使いこなし、複雑・高度化した社会課題の解決に貢献できる人材に。

4. 様々なフィールドでDX人材として活躍

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル、応用基礎レベル）に対応する教育プログラムを予定。企業に選ばれるDX人材として活躍できる人材に。

【地域内で連携した教育体制の構築】

1. 企業や自治体との連携

市内関係団体等の会員企業と連携し、各社の課題等をテーマとしたPBL型授業や、旭川市と近隣町の自治体職員を講師として、地域の課題、将来展望などに関して、**双方向型やPBL型授業**を複数開講予定

2. 地域の研究機関との連携

（地独）北海道総合研究機構の林産試験場と北方建築総合研究所（いずれも旭川市内）の研究員や北海道立北の森づくり専門学院の教員により、地域課題や特性、課題解決例など、**地域に根差した講義を開講**

3. （一社）旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの参画校との連携

旭川医科大学、北海道教育大学旭川校、旭川工業高等専門学校とともに、アントレプレナーシップや数理・データサイエンス・AIに関する科目に関し、**遠隔授業、共同授業、単位互換などを実現するための検討**を実施

【外部資金獲得額の上乗せ】

科学研究費補助金について、全学の教員に申請を促すとともに、新学部で採用された教員においては**90%以上が申請**予定。採択実績のある経験豊富な教員による申請指導を実施し、20%以上の採択を目指す。また、企業等の課題や新規事業をテーマにしたPBL型授業を実施することで、共同研究や受託研究の増加を図る。

【地域の小中高生や企業の集いの場としての機能】

これまで既存学部で実施していた出張講義に加え、新学部では「IT教室」「起業塾」「未来のまちづくり」などの講義を実施。また、**ファブ・ラボやPBL型教育用教室**を設置し、学生のデザイン思考に基づく試作や、**地域の小中高生が「ものづくり教室」等**を通して、ものづくりに参加できるように整備。また、**中小企業の試作ルームとしての活用**も検討。